



## 11/11～13 荒尾の地域づくりば見てはいよ ～地域づくり団体全国研修交流会～

▶宮崎兄弟の歴史について熱心に聞き入る参加者たち



地域づくり団体全国研修交流会が開催されました。全国の地域づくり団体が一同に会し、まちづくりに関する研修と交流を行うもので、県内では初の開催。11日～12日にかけては分科会が行われ、荒尾・玉名ブロックの本市にも多くの人が参加しました。万田坑や海達公子の詩碑、宮崎兄弟資料館など市を代表する場所で参加者同士意見交換を行い、交流を深めました。参加者は、「すばらしい地域資源を生かすには、やはり人の力が大切ですね」と話しました。

## 11/19 普段からの備えが被害を防ぐ ～市総合防災訓練～

▶川北公民館に搬送された負傷者に応急処置を施す池上さん（左端）



大雨・洪水・土砂災害を想定した市総合防災訓練を行いました。関係機関約300人の参加者は、情報伝達訓練・身元確認訓練・行方不明者捜索訓練などを行いました。また、自主防災組織として川北区自主防災会が初めて避難訓練に参加し、行政との連携を確認しました。救護班として参加した有明高校看護専攻科の池上さくらさんは、「災害を現実的に感じました。緊急時には看護師としてやるべきことをしっかりやりたい」と意気込みました。

## 11/26 まちの魅力を再発見した旅 ～大牟田・荒尾合同景観発見ツアー～

▶万田坑構内の第二壘坑口について説明を受ける参加者



三池炭鉱関連遺産を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録1周年記念事業として、万田坑・三川坑・三池港などを巡る景観発見ツアーを本市と大牟田市の合同で開催しました。午前部と午後部に126人が参加し、荒尾・大牟田を代表する景観をバスで見学しました。三池港では船に乗り、海上から歴史的な景観を楽しみました。「船から見る三池港の施設が素晴らしかった」、「人工島を初めて見るのができ良かった」など、船内には参加者の歓声が響いていました。

## 11/26 小さな発明家 全国で活躍 ～荒尾少年少女発明クラブが全国大会出場～

▶左から近藤さん、緒方さん、渡邊さん



東京工業大学で開催された全国少年少女チャレンジ創造コンテスト全国大会に、県代表として荒尾少年少女発明クラブの近藤瑞起さん（三中1年）、緒方七奈子さん（海陽中1年）、渡邊拓真さん（海陽中1年）が出場しました。地元を紹介するからくりパフォーマンスカーで、パフォーマンスの内容や車の走行の正確さを競う大会です。3人は熊本地震からの復興を願って熊本城と阿蘇草千里の馬を制作。同クラブからは、7年連続の全国大会出場となりました。

## 11/27 元気づくり委員会間の交流を促進 ～元気づくり交流会～

▶和気あいあいとしながらも、試合は白熱した展開を見せていました



12回目となる元気づくり交流会を開催しました。地域の元気創出のために日々活動している各地区の元気づくり委員会間の交流を図る目的で毎年行っているものです。今年度は交流会初の試みとして、平井校区元気づくり委員会主催の「平井地区史跡探訪ウォーキング」に参加する予定でしたが、雨天により中止となったため、平井小学校体育館にて室内ペタンク大会を開催しました。

## 11/29 宅地建物取引業で地域貢献 ～国土交通大臣表彰を報告～

▶国土交通大臣表彰を報告する村上支部長（左端）



長年にわたる宅地建物取引業の功績と、地方業界の発展に寄与したとして、県宅建協会副会長兼荒尾支部長の村上裕二さんが平成28年度国土交通大臣表彰を受賞し、市へ喜びの報告を行いました。村上さんは、「これからも空家対策にしっかり取り組んでいきたいです」と意気込みを新たにしました。村上さんは同日に開催された市空家等対策審議会にも委員として出席。同審議会では、各委員が今後の空家対策について議論を重ねました。

## 11/29 日頃からの訓練が大切です ～有明地区地震津波対応避難訓練～

▶児童はノートなどを頭の上に置き、教室から運動場に避難しました



有明小学校で地震津波対応避難訓練が消防署、警察署、消防団の協力で実施されました。地震発生を知らせる非常ベルと放送の後、児童は机の下に潜り、揺れが収まった放送により教室から運動場に避難しました。その後、津波警報発生を知らせるサイレンが鳴り、児童は校舎2階に避難しました。また、このサイレンにより、有明地区住民も避難訓練を行い、小学校までの避難方法を確認。訓練後には消防署職員からの講話が行われ、災害発生時の対応などについて学びました。

## 12/3 絆を大切にお互いを思い合う ～人権フェスティバル～

▶清里小の子どもたちは元気よく絆の大切さについて発表しました



人権フェスティバルを文化センターで開催しました。ステージでは、緑ヶ丘小と清里小の子どもたちが発表を通して友情や思いやりを、荒尾・岱志高生は書道パフォーマンスを通して情熱を持つことの大切さを訴えました。障がいがありながらもピアニストとして活躍している月足さおりさんの講演会も開催されました。展示部門では、絵画・習字・標語・工作・人権パネル掲示なども行われ、1,200人ほどの参加者は、人権について学び、思いやりの大切さを感じる一日を過ごしました。